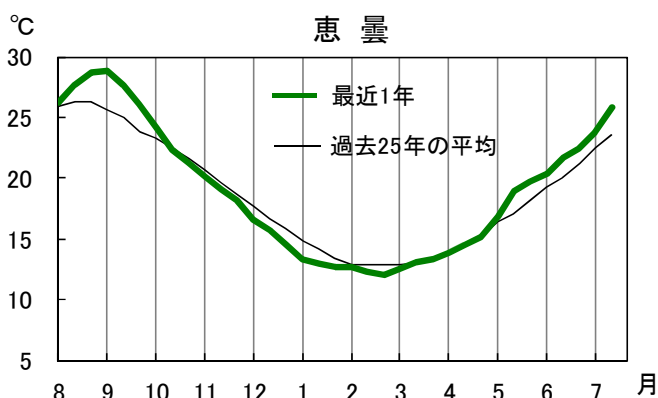
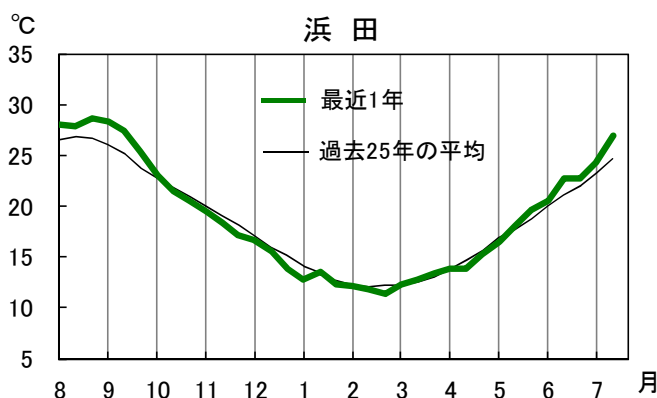




《6～7月の海況》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	22.0℃	+0.9℃	かなり高め
恵曇	21.5℃	+1.3℃	はなはだ高め

沿岸定地水温は、6月は浜田地区、恵曇地区とも「やや高め～はなはだ高め」と高め基調で推移しました。7月に入っても両地区ともその傾向が続き、中旬時点で浜田地区が「やや高め～はなはだ高め」、恵曇地区が「やや高め～かなり高め」で経過しています。



《6月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年をやや上回りました。この時期主体となるマアジは平年並みでしたが、スルメイカ等その他の魚種は平年を上回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、マイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。この時期主体となるマイワシは平年の7割に留まったものの、マアジは平年の約2倍の漁獲量となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカ（全体の52%）とケンサキイカ（同48%）が主体の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は118kgで平年を上回りました。魚種別漁獲量はケンサキイカは平年の2.3倍、スルメイカは平年の1.8倍の漁獲量で、ともに平年を上回る漁況でした。一方、西郷地区（属地5トン以上）ではスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は36kgで平年を下回りました。

【バイかご漁業】

6月から始まった石見地区のバイかご漁業における総漁獲量は36トン、1隻1航海あたりの漁獲量は771kgで前年、平年を上回りました。主漁獲対象であるエッチェウバイの総漁獲量は32.7トン、1隻1航海あたりの漁獲量は695kgで平年の1.2倍の水揚げとなりました。銘柄「大」を主体に漁獲されています。

【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海あたりの漁獲量は1.7トンと平年の約2倍となりました。主体となるシイラの漁獲量は平年の2倍となり、例年シイラとともに漁獲されるヒラマサは1.6倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、ヒラマサ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は37.9トンでした。主要魚種であるマアジ、ケンサキイカが好調であった他、近年水揚げの無かったヒラマサが大量に漁獲されたことから全統の総漁獲量は平年を上回りました。出雲地区ではマアジ、ヒラマサ、ホソトビウオ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は34.6トンでした。ヒラマサ、ホソトビウオは好調だったものの、主要魚種であるマアジが平年の6割となったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではホソトビウオ、ブリ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は46.1トンとなりました。ホソトビウオは好調だったものの、その他の主要魚種が不調だったことから全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、ヒラマサ、ブリが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は19kgで平年を上回りました。出雲地区ではブリ、ケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は19kgで平年を上回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイ、ブリが主に漁獲され、1隻1航海あたりの総漁獲量は18kgで平年並みでした。ケンサキイカは石見地区（漁獲量は平年の3.9倍）・出雲地区（同4.0倍）の沿岸域で活発な漁場形成が続いているようです。

【平成 25 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1 航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ	388 トン	163%	100%	11 トン	153%	123%	◎
	西郷	マアジ、マイワシ	3,891 トン	230%	154%	41 トン	220%	157%	◎
	浦郷	マアジ、マイワシ	3,008 トン	362%	257%	37 トン	241%	184%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	20 トン	422%	243%	118kg	233%	162%	◎
	西郷	スルメイカ	0.04 トン	4%	0.3%	36kg	107%	35%	▲
バイかご	大田管内	エッチュウバイ	36 トン	120%	107%	771kg	112%	112%	◎
しいら漬け	和江	シイラ	26 トン	86%	92%	1.7 トン	108%	197%	◎
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ヒラマサ	62 トン	500%	200%	3.2 トン	448%	467%	◎
	美保関	ホソビウオ、マアジ、ヒラマサ	127 トン	93%	91%	1.3 トン	99%	95%	○
	浦郷	ホソビウオ、ブリ、マアジ	40 トン	117%	105%	1.5 トン	130%	107%	○
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ	15 トン	170%	145%	23kg	140%	95%	○
	大社	ブリ、ヒラマサ、ケンサキイカ	15 トン	95%	112%	24kg	95%	104%	○
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ	6 トン	82%	48%	23kg	105%	82%	▲

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が 0Kg(ほぼ 0Kg)のものは平年比を－とし

【ケンサキイカ情報】

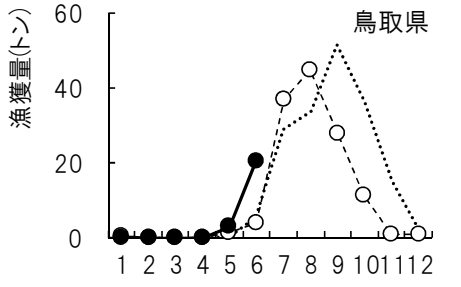
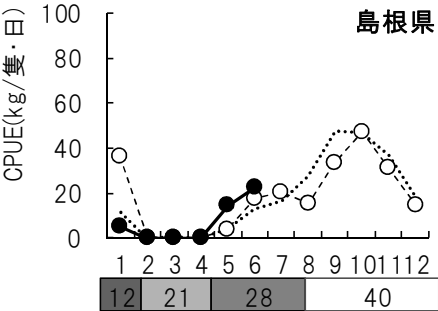
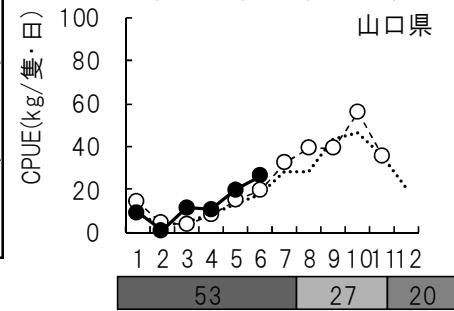
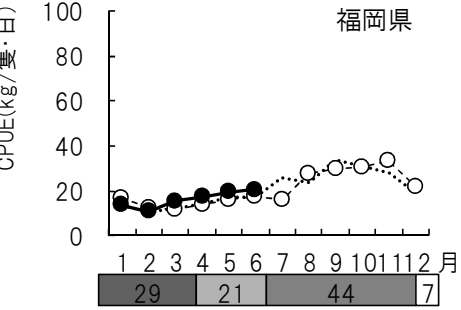
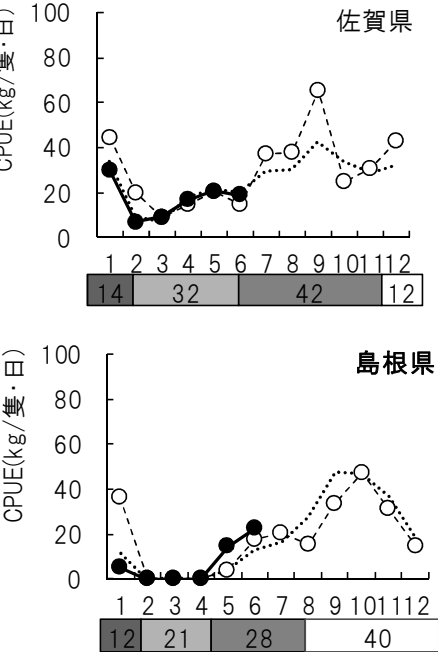
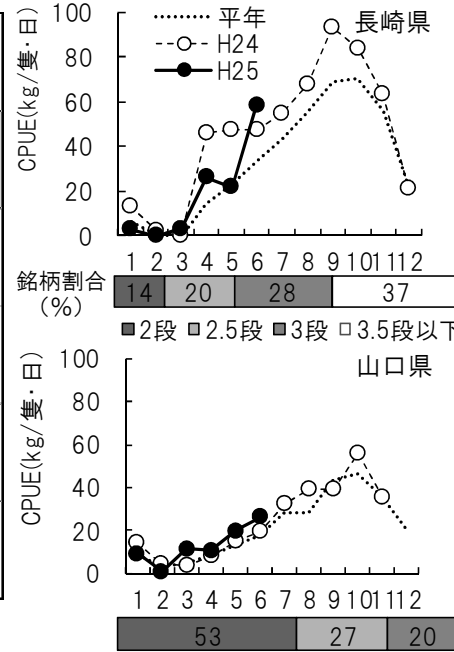
発行日：平成25年7月23日

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：6月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	6月の漁獲量は集計中(暫定値)ですが、昨年及び平年を大きく上回っています。特に県東部の小型定置網で好調な水揚げでした。
島根県	主要7港の水揚量は53トンで、前年・平年を上回りました(前年比343%、平年比372%)。
山口県	代表港の漁獲量は前年・平年を大きく上回りました。
福岡県	代表港の漁獲量は前年比152%、平年比113%で、前年・平年を上回りました。
佐賀県	標本漁協の漁獲量は、前年の118%、平年の64%でした。
長崎県	標本漁協の漁獲量は、前年の185%、平年の181%で前年・平年を大きく上回りました。



※平年は過去5年(H20～H24)の平均値

II：7月上旬の底層水温

鳥取県	島根県東部から鳥取県西部の水深100mの海域の底層水温は18℃前後でした。
島根県	今月は水温情報がありません。
山口県	底層水温は6～21℃で、沖合域では平年並み、沿岸域ではやや高めでした。
福岡県	沿岸域の水温は底層で20～21℃台と平年並み、沖合域の水温は底層で16～17℃台と平年並み～やや高めとなっています。
佐賀県	7月の底層水温は、老岐水道が20.2～21.3℃で平年並み、対馬東水道は15.5～19.4℃でした。
長崎県	五島西沖の底水温は、15～18℃台でした。

